



鹿角家の実家（交流拠点 kemakema と運営主体 NPO 法人かづの classy の主要メンバー）

「住んでいなくても地域の力に」

関係人口

かづのけ 鹿角家

本市が「関係人口」づくりの取り組みとして始めた「鹿角家」が3年目を迎えました。

「関係人口」とは、観光に訪れる交流人口でもなく、移住した定住人口でもなく、都会などに暮らしながら地域に関わり続ける人たちです。

- ・地域の特産品を買っている
- ・ふるさと納税をしている
- ・都会で地域の情報を発信している
- ・頻繁に地域に訪れている

など、さまざまな関わり方で地域の力になる人々を関係人口と呼びます。

そうした中、本市出身者や縁のある方、田舎を持ちたい都会の方など、Uターン・Iターンなどの移住はすぐに出来ないけれど、「鹿角市」に深い愛着を持ち、鹿角を想って行動してくれる方々の

コミュニティの場として誕生したのが「鹿角家」です。主体的に運営するのは、NPO 法人かづの classy です。

関係人口を大きな家族とみなし、県外から募った会員を「家族」と呼んでいます。今年5月現在で、「家族」は195人を数え、首都圏在住者が6割を占めます。本市出身者だけでなく、移住体験ツアーやフェアなどの参加者、仕事などで鹿角に縁がある方などからも多く登録いただいています。また、年齢層も20代から40代の登録が多い中、10代から80代まで幅広い年齢層がおり、まさに大家族となっています。

鹿角家では、毎年、首都圏での交流会「家族会議」を開催しています。毎回、満員となるほどの家族が参加し、実家である鹿角についての話し合いやお互いの近況報

NPO 法人かづの classy クラッシー

移住者の定住に向けたコミュニティづくりなどを目的に、移住コンシェルジュらが中核となり市民団体とともに設立した団体がかづの classy です。「鹿角家」の運営主体であり、市の移住事業の委託を受けています。

毛馬内下小路の国道沿いに面した築140年を超える古民家に事務所[kemakema]を設け、移住や定住に関する移住相談窓口を平日を中心に開設しています。近所の方が古民家見学として訪ねてくることや、法人の会員、市民がイベントなどの相談に来ることも多く、移住者に限らずたくさんの住民が集い、「いつでも誰かに出会える賑わい交流拠点」を目指しています。

鹿角家の取り組みにおいては、家族の実家（交流拠点）として、帰省などをした際の立ち寄り場となっています。

また、年末年始には年越しとして、そば打ちや餅つきなどをしたり、小さいお子さんのいる家族向けに、いちご狩りやバー



単独イベント（八幡平のドラゴンアイ鑑賞）

☎ NPO 法人かづの classy
090・7327・5013

ベキュー、花火イベントなど、さまざまなイベントを行っています。

イベントの参加や kemakema の見学は、どなたでも大歓迎です。

活動に興味をお持ちの方は会員も募集していますので、お気軽にお立ち寄りください。

告のほか、過去にはシンボルマークとなる「家紋」や最低限のルールとなる「家訓」などを決めました。

今、鹿角家では、都会に住む家族が、鹿角により主体的に関わることが出来る「関わりしろ」を发掘し、発信しています。これは家族のスキルと地域の課題などのマッチングを行い、地域づくりの新たな担い手になってもらおうというもので、お祭りや地域行事への主体的な参加やアイデアの募集などと呼ばれています。これまでに、農作業の手伝いから交流が生まれ、定期的に本市へ訪れる家族や、首都圏で行う物産展を手伝う家族、移住ツアーで交流した事業者へ自身のスキルを使いチラシを作成する家族など、複数のマッチングが行われています。この関わりしろについては、NPO 法人かづの classy のメンバーが地域などを回り、情報を集めていますので、気軽に相談してください。

鹿角から離れて暮らしていても、鹿角に深い愛着をお持ちの方が身近にありましたら、ぜひ鹿角家を紹介してください。（市外在住者に限ります）

☎ 政策企画課 鹿角ライフ促進班
30・0208



たくさんの家族が集う家族会議

鹿角家 家訓

一、家族ながよくすべし
鹿角を愛する会員同士、仲良く

一、困ったときは、しけでけれ
鹿角の困り事には、力を貸して

一、たまに実家さ、顔っこだしえ
鹿角家へ時には、顔を出して



鹿角家 家訓